

# 教育研究業績書

2020年10月27日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：平野 方子

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学	看護教育、動作解析、看護業務
学位	最終学歴
修士（看護学）	大阪大学大学院医学系研究科博士前期課程 修士

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 看護過程の展開演習	2019年6月～2019年7月	武庫川女子大学看護学部講義科目「成人看護学Ⅱ（急性期）」（専門科目，3年次配当，必修1単位）で6コマの演習を実施した。まず，教員が事例を用いながら看護過程を展開するための記録用紙，記録内容，そして記録の書き方を説明した。続いて，学生個々が課題に取り組み学びを全体で発表/共有する機会をもった。教員は学生の全体発表の前に学生一人ひとりの課題を確認し学生の理解度を把握することにより，解説/講評のポイントを絞ることができた。学生は他の学生の発表と教員の講評を聞くことで理解を深め，自分が学習できている点と不足している点を再確認できた。そして，学外実習までに自己学習すべき内容に気づくことができた。
2. 統合看護学実習	2018年6月～現在に至る	武庫川女子大学看護学部講義科目「統合看護学実習」（専門科目，4年次配当，必修2単位）で地域連携実習，および急性分野の実習指導を実施した。
3. 運動器手術を受ける患者の周手術期看護	2018年11月～2019年11月	武庫川女子大学看護学部講義科目「成人看護学ⅠB」（専門科目，2年次配当，必修2単位）で1コマの講義を実施した。講義の導入では学生がイメージしやすく動画を活用した。中盤から後半にかけては，運動器手術を受ける患者への看護ケアについて，それらの実施の根拠（解剖生理学，病態学，研究データ等）をまじえて説明した。学生に対して頻繁に発問を行うことで学生自身が考える時間をつくることができた。
4. 周手術期に関する演習：術前	2017年6月	武庫川女子大学看護学部講義科目「成人看護学Ⅱ（急性期）」（専門科目，3年次配当，必修1単位）で2コマの演習を実施した。主な内容は，①術前看護の概要，②呼吸意欲，③呼吸訓練に関する実技とし，学生の主体性と学習意欲を促進させるための工夫を行った。具体的には，学生が回答しやすい事前課題を取り上げた。またペーパーペイシェントとクリティカルパスを用いてストーリー性を持たせた。さらに実技と実技の合間にミニ講義をはさみ，なぜ行うのかという根拠を解剖学的知識に基づき説明した。加えて学生らに「実際の患者にどう説明するか」を考えさせ，解説を加えた。
5. 成人看護学実習（急性期）	2017年10月～現在に至る	武庫川女子大学看護学部講義科目「成人看護学実習（急性期）」（専門科目，3～4年次配当，必修3単位）で実習指導を実施した。実習目標が達成するように，学生に対し毎日個別で記録や1日の実践に対するフィードバックを行った。また，効果的な実習となるように施設側に対して，も，適宜，相談や調整を行った。2020年度の実習はCOVID-19の影響により一部学内実習となっているが，教材作成，実習計画の立案，計画に基づく実習を行っている。学生の反応は「学内でも周手術期看護の基礎知識に自信がもて実際の看護をイメージできる」と好評である。
6. グループワークの実施	2016年10月	武庫川女子大学看護学部講義科目「成人看護学ⅠB」（専門科目，3年次配当，必修2単位）において，グループワークのための素案と資料（事例設定，解答例，ルーブリック，発表ルール，当日の運営方法，学生のグループ割）を作成した。主担当教員指揮のもと分野内教員とも検討を重ねた。学生の感想は「患者の状況を段階的に話し合い援助方法を見出すことができた」，「まとめるのが難しい」等であった。学生の学びを支援するとともに，今後の改善点を明らかにすることができた。
7. 武庫川女子大学附属高校2年生のスーパーサイエンスコース 科学演習実験Ⅱ	2016年～現在に至る	武庫川大学附属高校の2年生に対する体験講義・演習（「寝心地を目でみてみよう！」）の補佐をした。計画の段階では，学生が興味と関心をもって授業に参加できる内容を検討した。また，授業が円滑に進むよう授業の進行/展開について素案を作成した。実施の段階では，主担当教員の進行に従い学生に対する部分的な技術指導を行った。
8. 初期演習	2015年6月	武庫川女子大学看護学部講義科目「初期演習」（専門科目，1年次配当，必修1単位）において学生の学習意欲を高めるために「看護師として働いた経験」を口演した。主な内容は，病院で出会った忘れられない患者のケア，課題，ケアを通して自分自身の人生を再考したことであ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
9. 一般教養科目「知っておきたい救急処置」	2015年4月2019年7月	る。学生の感想は「自分自身の成長につながる仕事なの だと思った」等、肯定的なものが多かった。将来の仕事 をイメージさせ、学習を動機付ける一助となったと考える。 武庫川女子大学講義科目「知っておきたい救急処置」（ 一般教養科目、1-4年次配当、選択2単位）において、講 義/演習の補佐をした。主担当教員の進行に従い、心肺蘇 生法や包帯の扱い方、身近な物品を用いた応急処置の方 法など演習形式で教授される技術を学生に指導した。学 生が正しい方法でそれらの技術を修得できるよう、こま めに見回り確認した。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 成人看護学実習（急性期）の学内実習資料	2020年5月～現在に至る	2020年度の武庫川女子大学看護学部実習科目「成人看護 学実習（急性期）」はCOVID-19の感染拡大の影響により 一部、施設実習から学内実習へ変更となった。そのため 、学習目標と実習計画にそって、実習期間における1日ご との学生配布資料を作成した。この資料の活用により、 教員・学生間で毎日その日の目標や実習内容、翌日まで の課題、実習内容に関する考慮/注意事項を共有するこ とができています。また、学生は自身のペースで振り返り ながら学修をすすめることができています。学内実習に対 する学生の感想は「学内実習であっても実際の患者さんを イメージできた」「他者の実践を客観的に観察すること で自身の看護を振り返ることができた」「周手術期の看 護に自信が持てる」など肯定的なものも多く聞かれてい る。実習期間における1日ごとの学生配布資料は、学生の 実習到達目標達成の一助となっていると考える。
2. 成人看護学関連の講義における配布資料	2017年10月～2019年7月	武庫川女子大学看護学部講義科目「成人看護学Ⅱ（急性 期）」「成人看護学ⅠB」の担当講義内において、スライ ド資料を作成した。可読性と学習効果を高めるために、 どのスライドも8行以内、かつ28ポイント以上の文字サイ ズで作成した。またスライド資料の一部の文字（重要項 目など）は空欄としたり、講義によってはスライドとは 異なる別資料を作成/配布したりして、学生が主体的に必 要知識を修得できるよう工夫した。
3. 成人看護学関連の講義と実習におけるペーパーペ イジェント事例の作成	2016年10月～現在に至る	武庫川女子大学看護学部講義科目「成人看護学ⅠB」「成 人看護学Ⅱ（急性期）」「成人看護学実習（急性期）」 において、講義/演習/実習で用いるペーパーペイジェン トを作成した。まず学ばせたい学習目標を明確に設定し 、それらが達成できるよう、かつ臨床に即したリアルな患 者となるよう教員間で検討を重ねた。また難解でなじみ のない専門用語によって学生の学習意欲を低下させない よう、専門用語を用いる際は唐突に略語が出現しない（ 必ず正式名称を用いた後に略語を用いるか、注釈をつけ る）ようにした。また、適宜イラストを挿入して患者の 状態をイメージできるよう工夫した。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 学生委員会委員	2019年4月～現在に至る	武庫川女子大学看護学部学生委員として、1) 体育祭・文 化祭・卒業パーティのサポート、2) 学生幹事懇談会の準 備/調整/当日運営/報告書作成、3) 看護学部卒業証書授 与式の企画/学内調整/準備、4) 学部内の感染対策に取り 組んでいる。
2. 国家試験対策委員会委員	2017年4月～2020年3月	武庫川女子大学看護学部国家試験対策委員として、1) 定 期的な学生面談、2) 模試の調整/運営/成績データの分析 、3) ランチタイムを利用して学習会の運営、4) Google classroomとGoogle Formを利用しての試験問題の作成、5 ) 学習図書管理を行った。
3. キャリア委員会委員	2016年4月～2017年3月	武庫川女子大学キャリア委員として、1) 就職説明会の企 画/準備/当日運営、2) キャリアガイドブックの校正、3 ) 進路調査と報告書の作成を行った。
4. 広報委員会委員（武庫川女子大学看護学部）	2015年4月～2016年3月	武庫川女子大学看護学部広報委員として、1) オープンキ ャンパスの企画/準備/役割調整/当日運営/当日スタッフ 、2) 大学内広報誌の記事執筆を担当した。
5. ティーチング・アシスタント	2012年4月～2014年3月	大阪大学医学部保健学科で基礎看護学分野のティーチン グ・アシスタントを行った。主に授業の準備、学生に対 する技術指導の補佐、実習指導補佐を担当した。
<b>4 その他</b>		
1. 武庫川女子大学 教育改善・改革プラン：研究課 題名「社会人基礎力育成を目指した看護教育の開 発」共同研究者	2015年4月～2020年3月	社会人基礎力の修得を目指した教育を実践し、その教育 効果の有効性を評価することを目的とした。具体的には 成人看護学関連の講義において社会人基礎力（3つの能力 と12の能力要素）を意識した教育を展開し、看護学部1期 生の入学時と卒業時における社会人基礎力の修得状況の 差異を比較した。卒業時の社会人基礎力得点は入学時よ りも向上していた。
<b>職務上の実績に関する事項</b>		
事項	年月日	概要

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 保健師	2013年2月	
2. 看護師	2000年5月	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. まちの保健室・健康相談ひろば	2018年8月～現在に至る (1回/年)	武庫川女子大学看護学部主催「まちの保健室」で地域住民対象の健康相談に相談員として参加している。直接、利用者から話をうかがい、利用者と同じ目線で改善策を話し合ったり提案したりする活動を行っている。
2. 看護倫理担当者としての役割 (公益財団法人倉敷中央病院)	2008年4月～2010年3月	看護師8年目より看護倫理担当者としての役割を担った。具体的には病棟全体での看護倫理に関する学習会を開催し、倫理原則に基づく看護実践のふりかえりを行うことにより、チーム全体で良質な看護を実践できるよう取り組んだ。
3. 新人看護師へのプリセプター役割 (公益財団法人倉敷中央病院)	2005年4月～2010年3月	看護師5年目より新人看護師一人を担当するプリセプター役割を担った。新人看護師の様々な疑問や困難が解決できるようサポートした。具体的には、定期的に面談や技術指導を行った。また、新人看護師の個性や技術習得進度に合わせて他スタッフに関わってもらえるよう他スタッフへの連絡・調整を行った。
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
<b>2 学位論文</b>				
1. アンブルカット動作の解析による看護技術教育における指導ポイントの検討 (修士論文)	単	2014年3月	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻	本研究では、看護技術教育における動作解析の1例としてアンブルカット動作に着目し、1) 熟練者の動作の特徴、ならびに、2) 未経験者の動作の特徴と学習効果を明らかにすることを目的とした。3次元動作解析システムと動画カメラを用いて、熟練者3名と未経験者1名のアンブルカット動作を測定し、利き手側の上肢6自由度の動きを分析した。尚、事前に上肢6自由度の動き (関節角度) を表す計算式を考案した。1) 熟練者はアンブルを折る動きである「肘関節の回外」と折れたアンブルの断面から利き手を遠ざける動きである「肘関節の伸展」があり、「回外」と「伸展」が連動していることが共通していたが、利き手を遠ざける方向は3者3様で差異があった。また、2) 未経験者は当初、「回外」と「伸展」の連動がみられなかったが、試行を重ねると消失したため、試行の反復による学習効果が明らかになった。 総頁：47頁
<b>3 学術論文</b>				
1. Analysis of upper-limb movements to open glass ampoules and training methods in nursing education (アンブルカットにおける上肢動作の解析と看護技術教育における指導方法の検討) (査読付き)	共	2019年8月	Journal of Biomechanical Science and Engineering (JBSE), Vol. 14, No. 2, 19-00037	本研究では、アンブルカットにおける動作のしくみと指導ポイントを明らかにすることを目的として、経験者10名の動作を分析した。左右の上肢7自由度の動きを分析対象とし、3次元動作解析システム (200FPS)、ハイスピードカメラ (1000Hz)、動画カメラ (30FPS) を用いて計測した。分析により、アンブルカット動作のしくみと動作における指導ポイントが明らかとなった。 本人担当部分：研究全般、論文まとめを担当。 共著者名：Masako Hirano, Atsue ISHII, Noriko UEDA, Yoshiaki INOUE, Masako MIYAJIMA, Kohei TOMITA, Yoshitaka NAKANISHI, Shima OKADA, Yaemi KOSHINO and Taketoshi MARUI
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1. アンブルカット動作における指先軌道について	共	2020年10月	第8回看護理工学会学術集会 講演抄録集 pp. 59	本研究ではアンブルカット動作における左右指先軌道の差異を明らかにすることを目的として、経験者1名と受傷者1名の左右指先位置とその軌道を比較した。経験者はアンブルを折る動作中に左右指先軌道の交差がなかったが、受傷者はアンブルが折れた後、交差があった。受傷者は左右上肢の動きに起因して左右指先が接近し、受傷する事実が明らかとなった。 本人担当部分：研究全般、発表を担当。 共同発表者：平野方子, 石井豊恵, 井上文彰, 越野

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
2. ベッドサイドにおける行動から見た経験年数による看護の差に関する検討	共	2018年8月	第22回日本看護管理学会学術集会抄録集 p. 346	八重美, 岡田志麻, 中嶋章仁, 福重春菜, 山口亜希子, 大野学, 菅彩香 本研究では経験年数による看護行為の差を明らかにすることを目的として, ベテラン看護師4名と新人看護師3名が患者へケアを提供する際の行動を分析した。ベテラン看護師と新人看護師では, 同一時間内に実施できる観察やケアの数に差が出ることがわかった。 本人担当部分: 共同研究につき, 抽出不可能。 共同発表者: 長谷川有里, 石井豊恵, 上田記子, 三谷理恵, 伊藤朗子, 平野方子, 越村利恵, 谷浦葉子, 谷川茜
3. Early Detection of Stage I Pressure Ulcers Identifying Non-Blanchable Erythema Using Electric Impedance	共	2017年8月	Sigma Theta Tau International's 28th International Nursing Research Congress	本研究ではステージIの褥瘡を早期発見するための機器開発を目指している。それゆえ, 白く消退する皮膚発赤部, 部分的に白く消退しない皮膚発赤部, そして完全に白く消退しない皮膚発赤部の3種類と電気インピーダンス値との関連性を明らかにすることを目的として, 被験者23名における皮膚発赤部の電気インピーダンス値を分析した。その結果, インピーダンス値には3つの分布が存在し, 3種類の皮膚発赤部において有意差を認めた。 本人担当部分: 共同研究につき, 抽出不可能。 共同発表者: Masako Miyajima, Aki Ibe, Nanae Ikeda, Masako Hirano, Kaori Fujimoto and Tomoko Tamaki
4. Current Status and Problems Concerning Fundamental Competencies for Working Persons among First-year Nursing Students in University	共	2017年3月	The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars pp. 154	本研究では看護学部1年生の社会人基礎力の現状とコミュニケーション能力との関係を明らかにすることを目的として, 1年生86名の社会人基礎力(12要素36項目)とコミュニケーション能力(24項目)についてアンケート調査を実施した。3つの能力: 「前に踏み出す力」「考える力」「チームで働く力」のうち, 「考える力」が最も低く, 社会人基礎力とコミュニケーション能力には相関があった。とくに「考える力」に重点を置いた授業を実施し, 授業の有効性を評価していく必要性が示唆された。 本人担当部分: 研究全般, 発表を担当。 共同発表者: Masako Hirano, Masako Miyajima, Kaori Fujimoto, Tomoko Tamaki and Nanae Ikeda
5. Comparison of the caring behavior of nurses depending on clinical experience: what do nurses think when caring for patients?	共	2017年3月	The 8th International Multi-Conference on Complexity, Informatics and Cybernetics: ICMCIC 2017 pp. 198-200	本研究では看護師の情報の取り込みと臨床経験に応じたケア行動の特徴的な違いを特定することを目的として, 熟練看護師1名と新人看護師1名の看護ケア行動を分析した。熟練看護師は患者の呼吸状態など様々な指標を測定し, 新人看護師よりも多くの情報を取得し統合していた。 本人担当部分: 共同研究につき, 抽出不可能。 共同発表者: Atsue ISHII, Noriko UEDA, Yoshiaki INOUE, Masako HIRANO, Akane TANIGAWA, Naoko HORII, Rieko SHIODE, Ko JYO, Rie Mitani and Yoko TANIURA
6. アンブルカットにおける安全な動きの検討	共	2017年11月	第25回看護人間工学会 総会・研究発表会プログラム・抄録集 pp. 38	本研究ではアンブルカット動作における受傷の動作要因を検討するために, 1) 受傷時刻と部位, 2) 利き手側の肘関節の回外に対する伸展の出遅れと受傷の実態, 3) 非利き手において受傷を予防する動きがあるかどうかを明らかにすることを目的として, 非受傷者7名と受傷者7名の上肢動作を分析した。その結果, 1) 受傷時刻の平均は0.011±0.004秒, 2) 伸展の出遅れは非受傷者にもある, 3) 非利き手を利き手から遠ざける動きも受傷予防の動きとなる可能性を明らかにした。 本人担当部分: 研究全般, 発表を担当。 共同発表者: 平野方子, 石井豊恵, 井上文彰, 宮嶋正子, 岡田志麻, 越野八重美
7. 仮想フィールドにおいて看護師が援助する際の視線・行動・動線の新人看護師と熟練看護師の比較情報への取り込みに着目して	共	2016年8月	第17回日本医療情報学会看護学術大会論文集 pp. 141-142	本研究では熟練看護師の複雑な臨床実践能力を可視化すべく, 仮想フィールドという同一条件下で新人看護師3名と熟練看護師3名が患者に援助する際の視線・行動・動線の3点を比較検討することを目的とした。その結果, 看護師の経験年数による明らかな差異はみられなかった。これは設定した看護場面が新人看護師も対応できる最も基本的な臨床場面であるために新人看護師も熟練看護師も同様の傾向を示したと考えられる。 本人担当部分: 共同研究につき, 抽出不可能。 共同発表者: 上田記子, 石井豊恵, 平野方子, 井上文彰, 蔭田奈津子, 中野瑠子, 徐紅, 谷浦葉子, 堀井菜緒子, 谷川茜, 塩出理恵子
8. アクティブラーニングを意識した授業運営後の看護系大学1年生の社会人基礎力の現状	共	2016年8月	第42回日本看護研究学会 プログラム及び内容要旨 39(3), pp. 37	講義科目「成人看護学概論」(専門科目, 1年次配当, 必修1単位)でアクティブラーニングを意識した講義を行った。講義後, 看護学部1年生の社会人基礎力を把握することを目的としてアンケート調査を実施

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
9. How about the Safety and Comfort for Ambulation of Post-thoracotomy Patients ?	共	2015年9月	Japan-the Netherlands Symposium on Soft-Tribology pp. 117-121	し、質的帰納的分析を行った。その結果、充足項目として4つのカテゴリ：「深く考え知識を深め実感」「多くの意見を理解しまとめる経験」「積極的な行動の経験」「より良いチーム作りの経験」を抽出した。また、不足項目として3つのカテゴリ：「深く考える根気強さ」「相手を理解しチームをまとめるために必要なこと」「積極的に発信・挑戦すること」を抽出した。 本人担当部分：共同研究につき、抽出不可能。 共同発表者：藤本かおり、池田七衣、平野方子、宮嶋正子
10. 集中治療室入室患者の仙骨部・踵部角層水分量におよぼす影響因子の検討	共	2015年8月	日本褥瘡学会学術集会抄録集 17(3), pp. 395	開胸術後離床時は多数の医療機器を点滴スタンドに積載し、患者はその点滴スタンドを押しながら歩行することが多いため、歩行支援台車（以下台車）を制作した。本研究では開発した台車の安全性と快適性を評価することを目的として、台車と従来使用の点滴スタンドでの安全性と安楽性を力学的に比較した。点滴スタンドを使用する場合は、ある程度の制御が必要となり、転倒のリスクがあることが明らかになった。 本人担当部分：共同研究につき、抽出不可能。 共同発表者：Atsue ISHII, Noriko UEDA, Masako HIRANO, Kohei TOMITA, Yoshitaka NAKANISHI, Yoshiaki INOUE, Rie NAKAGAWA, Chisato YANAGAWA, Yasuaki MATSUMOTO, Tsuyoshi BABA and Masashi INOUE
11. 開胸術後患者の歩行支援台車使用下歩行の安全性・安楽性の検討	共	2014年10月	第2回看護理工学会学術集会プログラム・概要集 pp. 49	集中治療室入室患者の仙骨部・踵部角層水分量におよぼす影響因子を検討した。 本人担当部分：共同研究につき、抽出不可能。 共同発表者：宮嶋正子、内垣亜希子、藤本かおり、池田七衣、平野方子、伊部亜希、阿曾洋子
12. アンブルカット動作の解析による看護技術教育における指導ポイントの検討	共	2014年10月	第2回看護理工学会学術集会プログラム・概要集 pp. 49	開胸術後離床時の歩行支援台車（以下台車）を制作した。本研究では、台車と従来使用の点滴スタンド使用した場合の歩行の安全性と安楽性を検討することを目的とした。開胸術後患者16名を対象とし、医療機器を積載した台車と点滴スタンドのそれぞれが段差を乗り越える際の動きと衝撃力を測定した。台車は障害物に対する安定性は高く、患者は寄りかかることができるが、操作には大きな力が必要であった。点滴スタンドは楽に操作できる一方、倒れやすく寄りかかることができなかった。患者の離床段階に応じた離床器具の選択が必要であることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出不可能。 共同発表者：上田記子、石井豊恵、平野方子、富田耕平、柳川千里、中川里恵、中西義孝、松本保朗、山川誠、馬場剛之
13. 包帯装着時の圧分布の変化	共	2013年9月	第12回日本看護技術学会学術集会 抄録集 pp. 122	本研究では安全かつ合理的なアンブルカット動作を教えるための指導ポイントを検討することを目的とし、熟練者3名と未経験者1名が利き手でアンブルカットをする動作を分析した。動作は3次元動作解析システムを用いて測定し、上肢6自由度の動きを計算した。熟達者の共通点、および熟練者と未経験者の差異点からアンブルカットの指導ポイントは、1) 利き手肘関節の回外の動きを用いてアンブルの首を折る、2) 利き手肘関節の伸展の動きを用いて折れたアンブルの断面から手を遠ざける、3) 回外と伸展の動きを連動させる、の3点であることが明らかになった。 本人担当部分：研究全般、発表を担当。 共同発表者：平野方子、石井豊恵、上田記子、富田耕平、中西義孝、越野八重美、井上文彰、松本保朗、永村和真、圓井健敏
14. Understanding the characteristics of collaborative work in nursing activities: A time and motion study	共	2013年9月	ICServ2013	本研究は包帯装着時の圧分布の変化を明らかにすることを目的とし、異なる関節角度と異なる包帯の張力において圧分布の変化を観察した。 本人担当部分：共同研究につき、抽出不可能。 共同発表者：富田耕平、石井豊恵、平野方子、平田記子、中西義孝
14. Understanding the characteristics of collaborative work in nursing activities: A time and motion study	共	2013年9月	ICServ2013	本研究では看護業務に従事する医療スタッフの協働業務の内容と協働者の職種を明らかにすることを目的として、看護師を対象とした業務量調査を行い分析した。一般病棟では看護師同士が情報を共有し協働業務を行うためのケア時刻を調整していた。外来化学療法室では、看護師はさまざまな職種とタイムリーに情報を共有し、限られた時間内にスムーズに患者の治療とケアを協働して行っていた。 本人担当部分：共同研究につき、抽出不可能。 共同発表者：Noriko Hirata, Atsue Ishii, Kohei Tomita, Masako Hirano, Mitsuko Yokouchi, Yuko Ohno, Sachiko Shimizu, Akiyo Higashimura and Nob

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
15. 開胸術後離床支援ツールの開発	共	2013年9月	日本機械学会 九州支部 鹿児島講演会	ue Uchida 電動持続吸引器などの医療機器を搭載できる開胸術後離床時の歩行支援台車を工学的な観点で制作し紹介した。 本人担当部分：共同研究につき、抽出不可能。 共同発表者：中西義孝，松本保朗，馬場剛之，山川誠，平田記子，平野方子，富田耕平，石井豊恵
16. 心臓血管外科術後の低圧持続吸引器使用下での歩行の安全性と安楽性の検討 -低圧持続吸引器設置用歩行支援台車の開発と製作-	共	2013年9月	第10回日本循環器看護学会学術集会 抄録集 pp. 89	本研究では、開発した低圧持続吸引器設置用歩行支援台車（以下台車）を使用した際の患者の力学的負荷を明らかにすることを目的として、患者2名における直線上の歩行状況を分析した。患者は歩行中、鉛直方向下向きに12Nから86Nの力をかけていた。台車に寄りかかりながら歩行しており、体幹の安定に台車が寄与していると考えられた。 本人担当部分：共同研究につき、抽出不可能。 共同発表者：平田記子，石井豊恵，中川理恵，中西義孝，富田耕平，平野方子，山川誠，馬場剛之
17. 熟達者のアンブルカット動作の比較	共	2013年9月	生体医工学シンポジウム2013	本研究は熟達者のアンブルカット動作の特徴を明らかにすることを目的として、熟達者3名の利き手の上肢6自由度の動きを分析した。熟達者の共通動作からアンブルカット動作の構成要素が明らかになった。 本人担当部分：研究全般，発表を担当。 共同発表者：平野方子，石井豊恵，平田記子，富田耕平，中西義孝，越野八重美，松本保朗，永村和真，圓井健敏
18. Measurement of Force Exerted by a Postoperative Cardiovascular Surgery Patient Pushing a Trolley	共	2013年7月	The 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC' 13)	電動持続吸引器などの医療機器を搭載できる開胸術後離床時の歩行支援台車（以下台車）を開発した。本研究では台車を押す患者の力を明らかにすることを目的とし、1名の患者が6軸力センサをつけた台車を押す力を分析した。患者が一定の負荷で台車に寄りかかっていることが明らかになった。 本人担当部分：共同研究につき、抽出不可能。 共同発表者：Noriko HIRATA, Atsue ISHI, Kohei TOMITA, Masako HIRANO, Yoshitaka NAKANISHI, Yasuaki MATSUMOTO, Makoto YAMAKAWA and Tsuyoshi Baba
19. 一般病棟と外来化学療法室の看護業務における協働業務の実態と特徴	共	2013年7月	第14回日本医療情報学会看護学術大会 抄録集 pp. 59-60	本研究では、一般病棟と外来化学療法室の協働業務を明らかにすることを目的として、看護師を対象とした業務量調査から協働業務における内容と業務数を分析した。一般病棟の協働業務内容は、患者情報の共有，患者ケアの相談，生活援助が多くを占めていた。一方、外来化学療法室の協働業務は、電話連絡，医師や看護師との患者情報の共有，医師の介助が多くを占めていた。チーム医療と一言でまとめられがちであるが、目的によってその具体的な形態は変わるため、部署においてその特徴は異なっていることが明らかとなった。 本人担当部分：共同研究につき、抽出不可能。 共同発表者：平田記子，石井豊恵，富田耕平，平野方子，横内光子，大野ゆう子，水佐知子，東村昌代，内田宣江
20. The Effect of the Bandage with Graduations to Keep the Tension	共	2013年7月	The 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC' 13)	圧力モニターなしで圧力を制御できる目盛り付き包帯を開発した。本研究では開発した目盛り付き包帯における圧力維持の程度と有用性を検討することを目的として、3パターンの張力でプラスチックボトルに包帯を巻き、圧力を測定した。目盛り付き包帯の張力に応じて包帯の圧力を維持することができており、包帯の有用性が明らかとなった。 本人担当部分：共同研究につき、抽出不可能。 共同発表者：Kohei Tomita, Atsue Ishii, Masako Hirano, Noriko Hirata, Yoshitaka Nakanishi, Yasuaki Matsumoto, Daisuke Tsujinaka and Koichi Okamoto
21. Analysis of upper limb trajectories in ampoule opening	共	2013年7月	The 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC' 13)	本研究では、アンブルカット動作を構成する利き手側の上肢6自由度の軌跡を明らかにすることを目的として、熟練者3名と未経験者1名における利き手の動きを比較した。熟練者は肩，前腕，肘の関節の動きにおいて差異があったが、協調した動きであった。一方、未経験者はアンブルが折れた後、前腕の回外以外の動きが非常に小さかった。 本人担当部分：研究全般，発表を担当。 共同発表者：Masako Hirano, Atsue Ishii, Kohei Tomita, Noriko Hirata, Yoshitaka Nakanishi, Yasuaki Matsumoto, Kazuma Nagamura and Yaemi Koshino
22. モーションキャプチャーシステムを用いたアンブルカットの動作分析の試み	共	2012年9月	第20回看護人間工学部会研究発表会 プログラム・抄録集 pp. 15	本研究ではアンブルカット動作に必要な運動構成要素を右手の回転と移動，ならびに左手の固定と考慮し、1) 動作ポイントの抽出，2) 熟練者データの数値化による把握，3) 抽出した動作ポイントの適切性の評価を目的として、経験者3名と未経験者1名にお

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
				<p>る利き手の上肢動作を分析した。動作ポイントを右手；橈骨と尺骨の茎状突起，左手；母指遠位指節間関節としたが，手首を中心とした1方向の回転でアンブルカットが行われていることを同定できた。ゆえに，右手関節の回転運動を解析したことは妥当であると考えられる。動作ポイントにおける移動距離，回転角度，回転速度も数値化できた。</p> <p>本人担当部分：研究全般，発表を担当。</p> <p>共同発表者：平野方子，石井豊恵，中西義孝，富田耕平，平田記子，越野八重美，永村和真，松本保朗，圓井健敏</p>
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 研究課題名：看護基礎教育における身体アセスメント能力を育む教育プログラムの開発	共	2020年4月～現在に至る	科学研究費補助金（基盤研究C） 研究代表者	看護学生や新人看護師は疾患と看護ケアの間の関係性を筋道立てて追う（＝論理的思考に基づく）身体アセスメントが難しく，ケア行動の実態からは臨床現場で求められる実践力を獲得しているとは言い難い。本研究では看護学生の身体アセスメント能力を育む教育プログラムを開発し，学生の身体アセスメント能力向上とアセスメントに基づく看護ケアの実践能力向上を目指す。 助成金額：4,290千円
2. 研究課題名：アンブルカット動作における安全性と合理性の検討	単	2016年～2018年	科学研究費補助金（研究活動スタート支援） 研究代表者	本研究では看護技術教育における動作解析の一例として，アンブルカット動作における安全性と合理性を検証し，1) 上肢動作のメカニズムと未経験者の指導ポイント，2) 受傷をまねく動作要因を明らかにすることを目的として約30名のデータを分析し，一定の成果を得た。 助成金額：2,080千円

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2019年8月～現在に至る	看護人間工学会会員
2. 2019年3月	第16回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会 実行委員
3. 2018年10月	第26回看護人間工学部会 総会・研究発表会 実行委員
4. 2017年6月	第19回日本母性看護学会学術集会 実行協力員
5. 2016年9月	第15回日本アディクション看護学会学術集会 実行協力員
6. 2016年8月～現在に至る	日本看護研究学会入会
7. 2014年10月～現在に至る	看護理工学会入会
8. 2013年9月～現在に至る	日本看護技術学会会員
9. 2012年7月	看護人間工学部会会員（閉会にて2019年3月まで）